

「保健福祉センターの再編」と「こども家庭センターの機能強化」におけるパブリックコメントを受けての今後の対応

1 要旨

かねてから検討していた「保健福祉センターの再編」と「こども家庭センターの機能強化」について、パブリックコメントを実施しました。

その結果、市民の皆さんから特に保健福祉センターの再編について不安等のご意見をいただきました。これは、この取り組みの目的やそれによる市民サービスの向上について、説明資料が適切でなかったと考えています。説明資料をつくり直し、意義が市民の皆様にしかりと伝わるよう、説明をやり直すことにしました。

改めて説明会などを開催し、再編等に係る目的や効果などを丁寧に説明し、市民の皆様のご意見をお聞きします。

2 パブリックコメントにかけた背景と内容

(1) 背景

保健福祉センターは市内9カ所に設置しており、全世代の市民の健康相談・保健指導・健康診査など、地域保健における身近な相談窓口としての役割を担ってきました。

かつては、「申込形式の教室や窓口相談など、市民が保健福祉センターに来所することで行う支援」が中心でしたが、2008年以降は「困難事例への対応など必要な人に必要なサービスと情報を届ける支援」の割合が多くを占めています。

また、核家族化や地域社会の変容等を背景に、子育てに困難を抱える世帯が増加していることを受け、2022年に児童福祉法が改正されました。これにより、すべての妊産婦、子育て世帯、子どもに対し、母子保健と児童福祉について、一体的に相談支援を行うことを目的に「こども家庭センター」を、2024年4月に各区役所子育て支援課内に設置しました。

これらのことから、保健と福祉が連携して、困難を抱える市民への支援の強化と、子育て支援の充実を図るため、時代に合った組織体制を提案するに至りました。

(2) 内容

- 市内に9箇所ある保健福祉センターを3箇所（葵区は城東、駿河区は南部、清水区は清水）にし、保健福祉センターの事業（各種健診、健康相談、各種教室等）を継続します。
 - 効果的な健康・保健事業を展開するため、保健福祉センターに配置している職員（保健師・栄養士・事務職など）を各区役所に集約して、新しい組織を設置します。
 - 集約した新しい組織は「こども家庭センター」※と横並びで配置し、保健師が「こども家庭センター」の母子保健機能の役割も担うことで、母子保健と児童福祉の支援の切れ目を解消します。
- ※ 全ての妊産婦・子育て世帯・子どもへ、母子保健機能と児童福祉機能の一体的な相談支援を行う組織
- 再編により使用しなくなる6箇所の保健福祉センターは、近隣の代替施設（生涯学習センターなど）に申請窓口を開設します。

参考資料：パブリックコメント募集時の資料

- 訪問など地域へ出向く活動を強化し、皆様の健康を支援します。

【次頁あり】

3 パブリックコメントの結果

- (1) 実施期間：令和7年1月22日（水）から令和7年2月21日（金）まで
 (2) 応募者数：59人 意見数：110件

意見	件数
賛成	5
反対	13
要望	25
その他	67
合計	110

性別	人数
男性	11
女性	46
回答しない	2
合計	59

年齢	人数
20歳代	2
30歳代	11
40歳代	7
50歳代	5
60歳代	14
70歳代以上	20
合計	59

(3) パブリックコメントの主な意見

○賛成意見

- ・共働きの家庭が増えて、健診指定日に都合を合わせることが大変なため、複数日あると助かる（再編）
- ・母子保健、児童福祉サービスのワンストップ化は良い（機能強化）

○反対意見

- ・幼い子を連れて遠くまで行くのは大変（再編）
- ・現在設置されている保健福祉センターを基本としながら、保健師や事務職などを大幅に増員して、地域保健に責任を負う体制へと改善すべき（再編）

○要望

- ・生涯学習センターに窓口を設けるのであれば、知識・経験を積み重ねてきた方をお願いしたい（再編）
- ・訪問型支援だけでなく、対面支援の窓口を増やし、多様なニーズに対応してほしい（再編）

○その他

- ・保健福祉センターを集約することで、幼児健診の待ち時間が今より長くなるのではないかと（再編）
- ・オンライン相談などを考えたらどうか（再編）
- ・保健福祉センターにこども家庭センターを設置したらどうか（機能強化）

4 パブリックコメントの結果の評価と今後の対応

「保健福祉センターの再編」と「こども家庭センターの機能強化」については、全体としては市民サービスの向上につながると考えています。

一方で、集約により利便性が低下する部分もあります。

全体としてのサービス向上は、個人にとっては実感がわきにくく、一方で、今、個人が受けているサービス水準の低下は、不便が発生するので、実感しやすいものです。

今回のパブリックコメントにおける反対は、この不便の発生への懸念や心配の声が多かったと認識しています。今回の再編等についての市の説明の仕方に問題があったと認識しています。

このため、今一度、再編等の目的・意義・効果を見つめ直し、その上で、説明資料をつくり直し、意義が市民の皆様にしっかりと伝わるよう、説明会などを開催し、再編等に係る目的や効果などを丁寧に説明し、市民の皆様のご意見をお聞きします。

担当：保健福祉長寿局 健康づくり推進課 (054 - 221-1571)



みなさまのご意見を募集します

意見募集期間:令和7年1月22日(水)~2月21日(金)



意見募集の趣旨

現在、静岡市では、「保健福祉センターの再編及びこども家庭センターの機能強化」について検討しています。具体的には、

- 市内に9箇所ある保健福祉センターを3箇所(葵区は城東、駿河区は南部、清水区は清水)にし、保健福祉センターの事業(各種健診、健康相談、各種教室等)を継続します。
- 効果的な健康・保健事業を展開するため、保健福祉センターに配置している職員(保健師・栄養士・事務職など)を各区役所に集約して、新しい組織を設置します。
- 集約した新しい組織は「こども家庭センター」*と横並びで配置し、保健師が「こども家庭センター」の母子保健機能の役割も担うことで、母子保健と児童福祉の支援の切れ目を解消します。

*全ての妊産婦・子育て世帯・子どもへ、母子保健機能と児童福祉機能の一体的な相談支援を行う組織

再編に関する Q & A



Q.いつからこの体制になるの？

A.令和8年4月からの新体制開始を目指していますが、開始時期がズレ込む可能性もあります。

Q. 母子健康手帳はどこに行けば発行してもらえるの？

A. 母子健康手帳は、各区役所に設置する「こども家庭センター」と清水福祉事務所蒲原出張所で発行します。保健師等の専門職が対応しますので、妊娠期の過ごし方、出産や育児のこと、ご心配なことなど、お気軽にご相談ください。

Q. 健康に関する相談をしたいときはどこに行けばいいの？

A.各区役所、3箇所の保健福祉センター(城東・南部・清水)と代替施設*で継続してお受けします。



Q. 1歳6か月児健診、3歳児健診はどこに行けばいいの？

A.3箇所の保健福祉センター(城東・南部・清水)で実施します。(駐車場あり)実施日を増やすため、指定日に受診できない場合は変更も可能です。

Q. 区役所に職員を集約することで離れた地域の方は相談しにくくなるのでは？

A. 訪問支援や出張型の健康教育等、地域に出向く活動を強化します。今後も継続して地区担当保健師が住民の方々の健康を支援します。

Q. 保健福祉センターに提出していた福祉等の申請はどうなるの？

A.3箇所の保健福祉センター(城東・南部・清水)と代替施設*にて引き続き申請を受け付けます。
◎申請できる種類は調整中



*代替施設:使用しなくなる保健福祉センターの近隣の生涯学習センターなど

対象者

静岡市内に在住または通勤・通学する方や、市内の法人、団体など、どなたでも提出できます。

提出方法

申込フォーム、意見書を郵送か FAX、直接、健康づくり推進課(静岡庁舎 12 階)に持参 [1/22(水)~2/21(金)必着]
※案と意見書は同課、各市区政情報コーナー、各保健福祉センター・市 HP にあります。 URL:<https://www.city.shizuoka.lg.jp/s7463/s012320.html>

「保健福祉センターの再編」と「こども家庭センターの機能強化」(案)

全世代を対象として支援を必要とする人々に、保健と福祉が連携して対応するとともに、子育て支援の充実を図るため、時代に合った組織体制に移行します。

1 保健福祉センターの現状について

(1) 役割

- 市民の健康増進等を目的として、**市内9箇所に保健福祉センターを設置し、子どもから高齢者までの全世代を対象とした、地域保健における健康相談や保健指導、健康診査、各種手続対応等**を行う。
- **各保健福祉センターに各5～8名の保健師を配置**し、保健師は周辺地区を担当して各種健診や教室の実施、地区住民への訪問活動などを行う。

(2) 現状

- ▲ 介護保険法、児童虐待防止法等が施行され、**保健福祉センターに求められる役割が変化**しており、**近年は地域包括支援センター(高齢者福祉)や子育て支援センター(子育て支援)などの専門部署との役割分担が進んでいる。**
- ▲ これに伴い、**訪問者数は減少**しているものの、**困難事例の相談は増加**している。(右表のとおり) ※対応時間も増加
- ▲ 区役所における唯一の出先機関(福祉関連業務との物理的な距離)
- ▲ 保健福祉センターの保健師配置は少人数配置(5～8人)となっている。
- ▲ 施設老朽化に伴う修繕費用及び維持管理コストが増加している。

		人数または回数	
		平成23年度	令和4年度
受入型 保健センターに 来所する事で受 ける支援	乳幼児健診等	全市合計 16,639人	全市合計 12,300人 ↓
	健康相談、申請	平均8.4人/日	平均5人/日 ↓
	教室参加者数 (妊婦・幼児・成人向け 各1教室)	全市合計 3,124人	全市合計 616人 ↓
訪問型 必要な人に必要 なサービスと情報 を届ける支援	困難事例(生活困 窮、若年妊婦など) への対応件数	全市合計 9,450件	全市合計 16,212件 ↑
	事例1件あたり 対応時間数の増加	全市合計 31,380時間	全市合計 67,020時間 ↑
	施設稼働率		30%程度

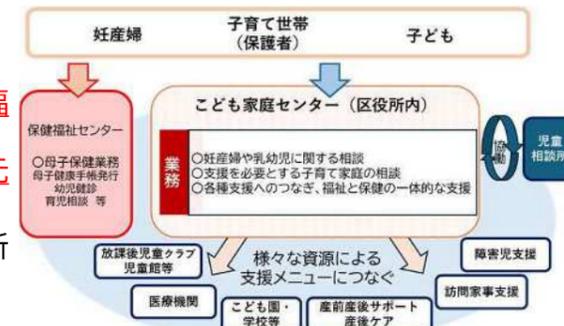
2 こども家庭センターの現状について

(1) 役割

- 改正児童福祉法により、全ての妊産婦・子育て世帯・子どもへ、一体的に相談支援を行う「**こども家庭センター**」を令和6年4月に各区福祉事務所子育て支援課内に設置した。
- 児童虐待の未然防止を目的に、母子保健機能と児童福祉機能を一体化し、**出生前から子育て期にかかる切れ目のない支援**を行う。

(2) 現状

- ▲ 母子健康手帳交付などの**母子保健事業の大部分は保健福祉センターで実施**している。**(母子保健の相談窓口が一元化されていない。)**
- ▲ こども家庭センター(区役所内)と保健福祉センターと**物理的な距離**がある。



3 課題とその解決による市民への効果

【保健福祉センターの現状から導かれる課題】

- ①潜在的な要支援者へのフォローが不十分
顕在化している生活困窮や若年妊婦など、要支援者の対応に時間がかかり、自ら支援を受けることに消極的な家庭など、潜在的な要支援者へのフォローが不十分のため、家庭が抱える困難が深刻化する恐れがある。
- ②福祉分野との連携が不十分
複雑化する困難事例に対し、保健師職単独での対応には限界があり、福祉を必要とする家庭への対応が遅れる可能性がある。
- ③柔軟な対応、人材育成が困難
少人数体制の分散配置では柔軟な対応や人材育成が困難であり、市民の多様なニーズへの対応が不十分。
- ④非効率な施設管理
各保健福祉センターで行う受入型の支援業務が減少している一方で、施設の維持管理に関する事務やコストが増加。

【こども家庭センターの現状から導かれる課題】

- ⑤組織体制が不十分
母子保健に関する業務(母子健康手帳の交付など)の多くは保健福祉センターで実施しているため、母子保健と児童福祉との支援の切れ目が発生し、支援が必要な家庭が抱える困難が深刻化する恐れがある。
- ⑥保健福祉センターとの物理的な距離
保健福祉センターとは物理的に離れており、支援担当者間の顔の見える関係性が不十分のため、迅速かつ柔軟な対応が行いづらい。また、相談・手続によっては市民が移動するため利便性が低い。

【課題に対する取組】

「保健福祉センターの再編」及び「こども家庭センターの機能強化」(案)

(1) 市内に**9箇所ある保健福祉センターを3箇所(葵区は城東、駿河区は南部、清水区は清水)にし、保健福祉センターの事業(各種健診、健康相談、各種教室等)を継続**します。

効果的な健康・保健事業を展開するため、保健福祉センターに配置している**職員(保健師・栄養士・事務職など)を各区役所に集約して、新しい組織を設置**します。

(2) 集約した**新しい組織は「こども家庭センター」と横並びで配置し、保健師が「こども家庭センター」の母子保健機能の役割も担う**ことで、母子保健と児童福祉の支援の切れ目を解消します。

【取組による市民への効果】

○母子保健・児童福祉サービスのワンストップ化【子育て世代】
母子保健、児童福祉に関する窓口を横並びで配置し利便性が向上(ワンストップ)。母子保健・児童福祉それぞれの専門性を活かし、家庭が抱える困難が深刻化する前に適切な支援につなげることで、出産・子育ての不安を解消できる。

○訪問支援の強化【全世代】
集約により生み出した人員・時間で、訪問支援を強化し、全世代に対し潜在的な要支援者へのフォローが可能になる。

○福祉との連携による健康支援の強化【全世代】
高齢者、生活保護受給者など、区役所が関わる全世代の市民の健康面に対して保健師が予防の観点で、情報提供や保健指導などの支援をすることができ、家庭が抱える困難の深刻化を防げる。

○保健師のスキルアップによる支援の質の向上【全世代】
経験豊富な保健師の様々な知識を共有することで、保健師全体のスキルアップが図られ、迅速な判断・対応ができるようになり、市民への支援の質が向上する。

○施設管理の効率化【全世代】
削減したコストを、市民のための行政施策に還元できる。

「保健福祉センターの再編」と「こども家庭センターの機能強化」(案)

各保健福祉センターに職員が在籍

葵区健康支援課

城東 東部 北部 藁科

※保健福祉センター 4箇所

駿河区健康支援課

南部 大里 長田

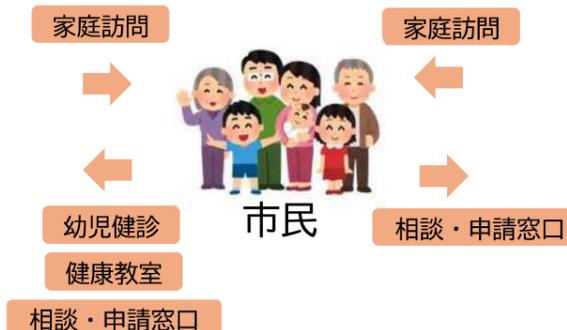
※保健福祉センター 3箇所

清水区健康支援課

清水 蒲原

※保健福祉センター 2箇所

現在の体制



葵区
駿河区
清水区
それぞれ設置

〇〇区役所

子育て支援課

こども家庭センター



保健師、心理職、福祉職等

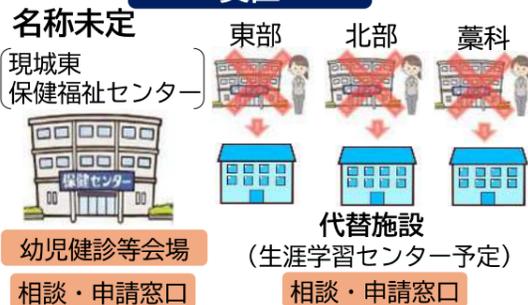
入園業務
や
給付業務

生活支援課 障害者支援課 高齢介護課

再編 (R8.4~※予定) により

施設は各区1箇所を残す
※他は代替施設へ

葵区



駿河区



清水区



施設を集約することにより…

- ✓ 利便性の高い場所(駐車場有)に集約し、事業を継続【全世代】
- ✓ 1施設当たりの健診等の実施回数が増加【全世代】
- ✓ 一部業務の相談・申請窓口は残しつつ、電子申請化を推進【全世代】
- ✓ 地域の関係機関と引き続き情報共有、連携(保健師が出向いたり、各協議会等へ出席)【全世代】

職員を各区役所に配置【新組織】



葵区
駿河区
清水区
それぞれ設置

〇〇区役所

現健康支援課(名称調整中)

【健康支援機能】



保健師

【母子保健機能】



保健師等

【児童福祉機能】



保健師 心理職 福祉等職

入園業務
や
給付業務

こども家庭センター
生活支援課 障害者支援課 高齢介護課

地域保健を担う保健師を区役所に配置することにより…

- ✓ 母子保健・児童福祉サービスのワンストップ化【子育て世代】
- ✓ 福祉との連携による健康支援の強化【全世代】
- ✓ 訪問支援の強化【全世代】
- ✓ 保健師のスキルアップによる支援の質の向上【全世代】

4 再編に伴う変更点

申請窓口について

【全世代】

- **3箇所の保健福祉センター**(城東、南部、清水)では**申請窓口を引き続き設置**します。
- また、再編により使用しなくなる6箇所の保健福祉センターは、近隣の**代替施設**(生涯学習センターなど)に**申請窓口を開設**します。
- **母子健康手帳**は、各区役所の「**こども家庭センター**」と**清水福祉事務所蒲原出張所**で発行します。保健師等の専門職が対応しますので、ご心配なことはお気軽に相談ください。



相談機会について

【全世代】

- **各区役所、3箇所の保健福祉センター、代替施設**(生涯学習センターなど)で、**引き続き相談可能な体制を整えます**。
- 各区役所に保健師を集めることで人的資源が充実し、**機敏に地域へ出向く活動を強化**します。今後も継続して**地区担当保健師が住民の方々の健康を支援**します。
- 今後、ICTを活用した相談環境も整えていきます。



幼児健診等について

【子育て世代】

- 各保健福祉センターで開催していた幼児健診等は、**3箇所の保健福祉センター**(城東、南部、清水)にて**実施**します。※駐車場あり
- また、これまで月一回の開催だったところ、**月の開催回数を増やし、柔軟な受診環境を用意**します。

